

諏訪収容所（東京第6分所）メモ

(マージン・マックグルーさんの亡夫、アルフレッド・マックグルー氏が収容)

1945.6.4、東京捕虜収容所第6分所として、長野県諏訪郡北山村6037(現・茅野市北山)に開設。捕虜250人が入所。(本所、第5派遣所、第24派遣所などから)

1945.8.15 終戦

1945.9.6 帰国の途に着く

●終戦時収容人員243(蘭91、米57、英55、加34、豪4、中国1、チェコスロバキア1)

●収容所は海拔1,150^{メートル}の諏訪鉦山内に設置された。現在の蓼科高原カントリークラブすずらん2番ホール付近に位置する。

●捕虜たちは日本鋼管諏訪鉄山鉦業所に使役された。鉦山は収容所の入口から1.2キロほど離れた丘の急斜面にあった。鉄を産する露天掘りの鉦山で、捕虜たちはツルハシやスコップで鉄鉦石を採掘したり、鉦石とコークスを混ぜて溶鉦炉で溶かす作業をした。労働時間は午前7時～午後4時で、そう過重な労働ではなかったという。

●所長：①林純勝中尉 ②川辺長康中尉

初代所長の林中尉は長野善光寺の僧侶だったが、大森収容所勤務や横浜収容所所長などを歴任。温厚な人柄で捕虜たちに慕われ、米軍捕虜から贈られたペナントが善光寺裏山の万国慰霊堂に祀られている。

●食料が乏しく、捕虜たちは周辺の畑から作物を盗んだり、野草を食べて飢えをしのいだ。

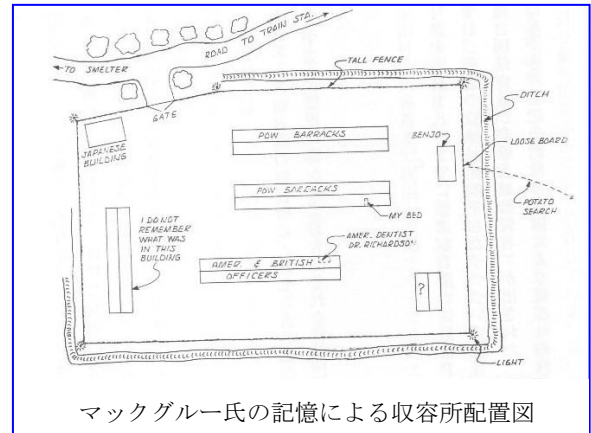
●収容中の死者4人。うちイギリス人とカナダ人は品川捕虜病院入院中に死亡。オランダ人2人のうち1人は毒草を食べて死亡した。

●1945年9月6日の午後3時過ぎ、中央線笹子駅で列車が転覆し、死傷者130名を出す大惨事となった。その

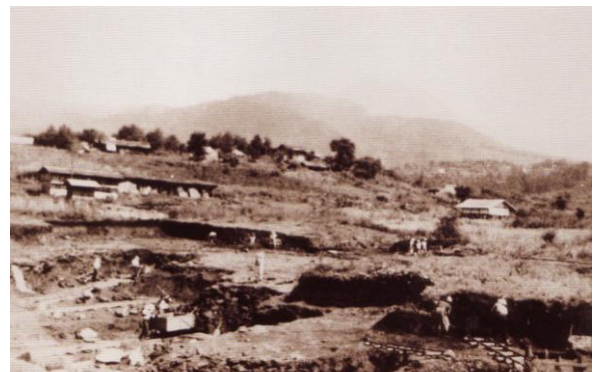
直後、収容所を引き揚げ、茅野駅から東京に向かう米軍捕虜80名を乗せた列車が笹子駅に到着した。捕虜たちはすぐに列車を降りて、持ち合わせた医薬品で負傷者の手当をしたり、食料や衣類、毛布などを与えたりした。このエピソードが翌日の朝日新聞に載り、横浜にいる捕虜たちに小日山運輸相からお礼の印として甲州名物の葡萄が贈られたという。

●1995年6月、この収容所にいたアルフレッド・マックグルー氏が妻のマージンさんと娘のビッキーさんと共に諏訪を再訪し、当時を知る住民たちと交流した。

(文責：笹本妙子)



マックグルー氏の記憶による収容所配置図



戦中の諏訪鉄山



スメルター(焼結炉)の様子:マックグルー画